

**ODC分析研究会 第6期  
研究テーマ1 報告**

**森 龍二（株式会社AGEST）**

# 研究テーマ1のご紹介

- ODC分析から最適な既存のプロセス改善手法を選択し組み合わせる研究。プロセス改善手法としてのODC分析の活用事例研究
  - ODC分析はソフトウェア開発に対してさまざまな洞察をもたらす。しかし組織外の担当者が分析を行う際にコンテキストを共有していないと、分析結果を受け取る側が、具体的にどう改善につないでいけばよいかに関して戸惑う場合がある。本研究ではODC分析と既存のプロセス改善手法、根本原因分析手法などとの関係性を明らかにすることにより、効果的かつ効率的な改善施策を打つための方法論を確立する。
- メンバー（敬称略）
  - 主任研究員
    - 森 龍二(AGEST)
    - 小島義也(エボルネット)
  - 研究員
    - 小竹かなえ(サイボウズ)
  - アドバイザー
    - 安達賢二(HBA)
- 例会
  - 7/1, 8/2, 8/23, 9/26, 11/25の計5回

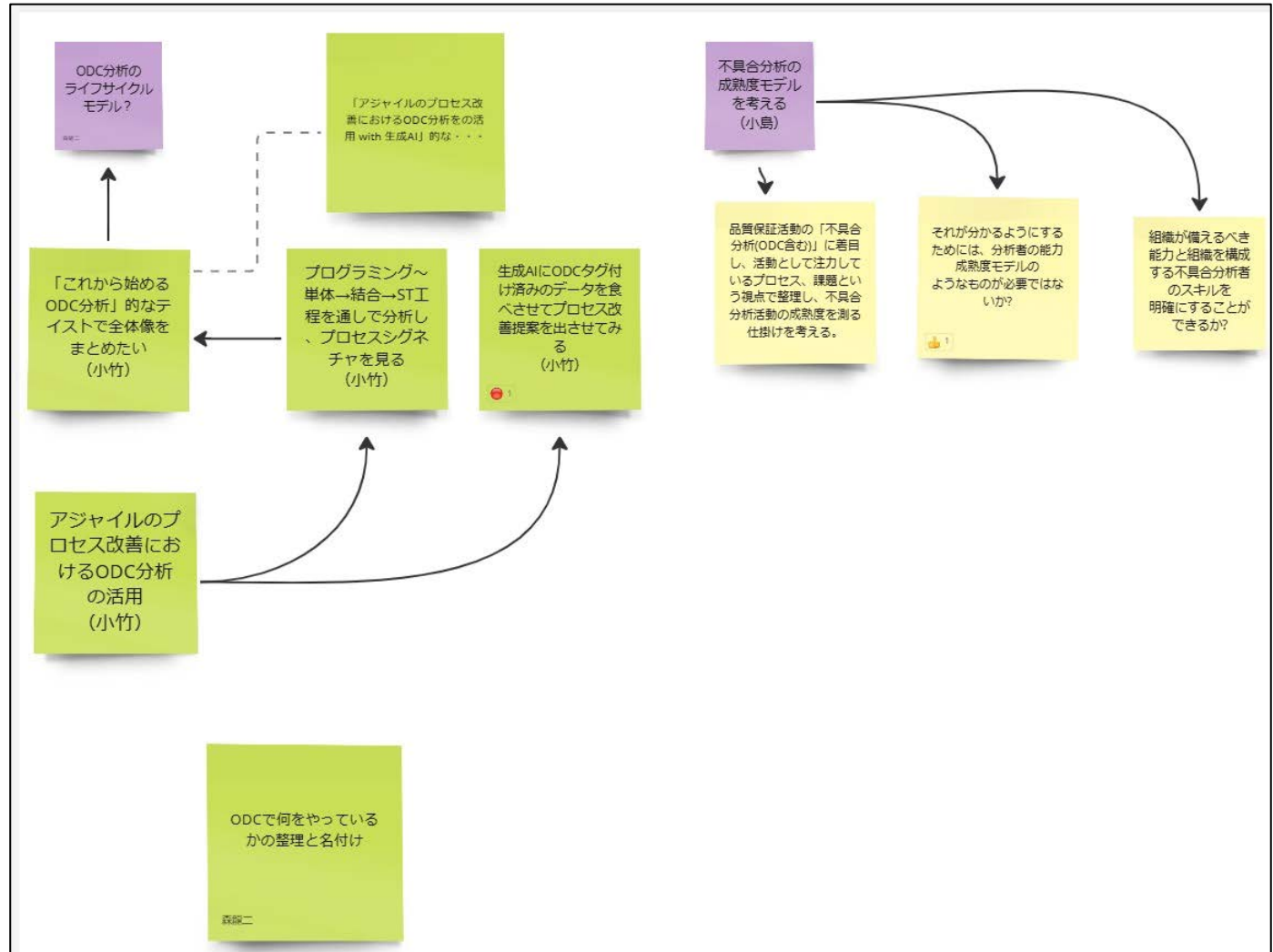
# 研究テーマ1 発想の経緯

- ODC分析の普及活動の中での気づき
- ODC分析はあくまで欠陥を契機にした手法
  - 欠陥として現出しないと扱えない
- 血止めの緊急治療も大事だが、その前に予防的手法との組み合わせは考えられないか？
  - 私の前職での経験（TPIとの組みあわせ）から
- ここで浪人（研究員がゼロ）時代が続く…
  - 「組み合わせる」ことに主眼を置いてしまったことは一つの反省点かもしれない
  - 組み合わせることは問題解決の手段でしかない
  - 何か解きたい問題があって、解決の過程で組み合わせるのが自然な形
  - テーマ設定に問題があったのかも

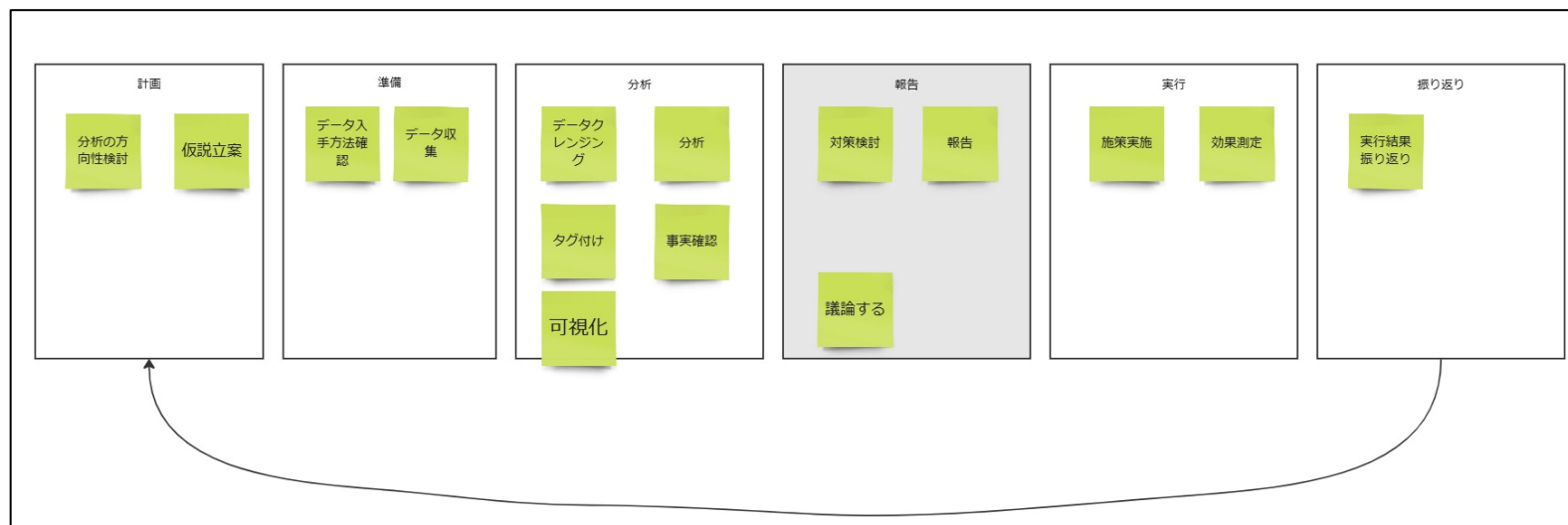
# 研究テーマ1の活動開始

- 第6期にして初めて研究員が参加してくれました！
  - 小竹さんありがとうございます
- 次のステップで進行
  - 研究目的の要件定義
  - ODC実施タスクの検討（中断中）
  - アジャイルに適合させる①
  - アジャイルに適合させる②
- 研究自体はMiro上に全データを置いて進めました
- 毎回時間を設定し、オンラインで実施

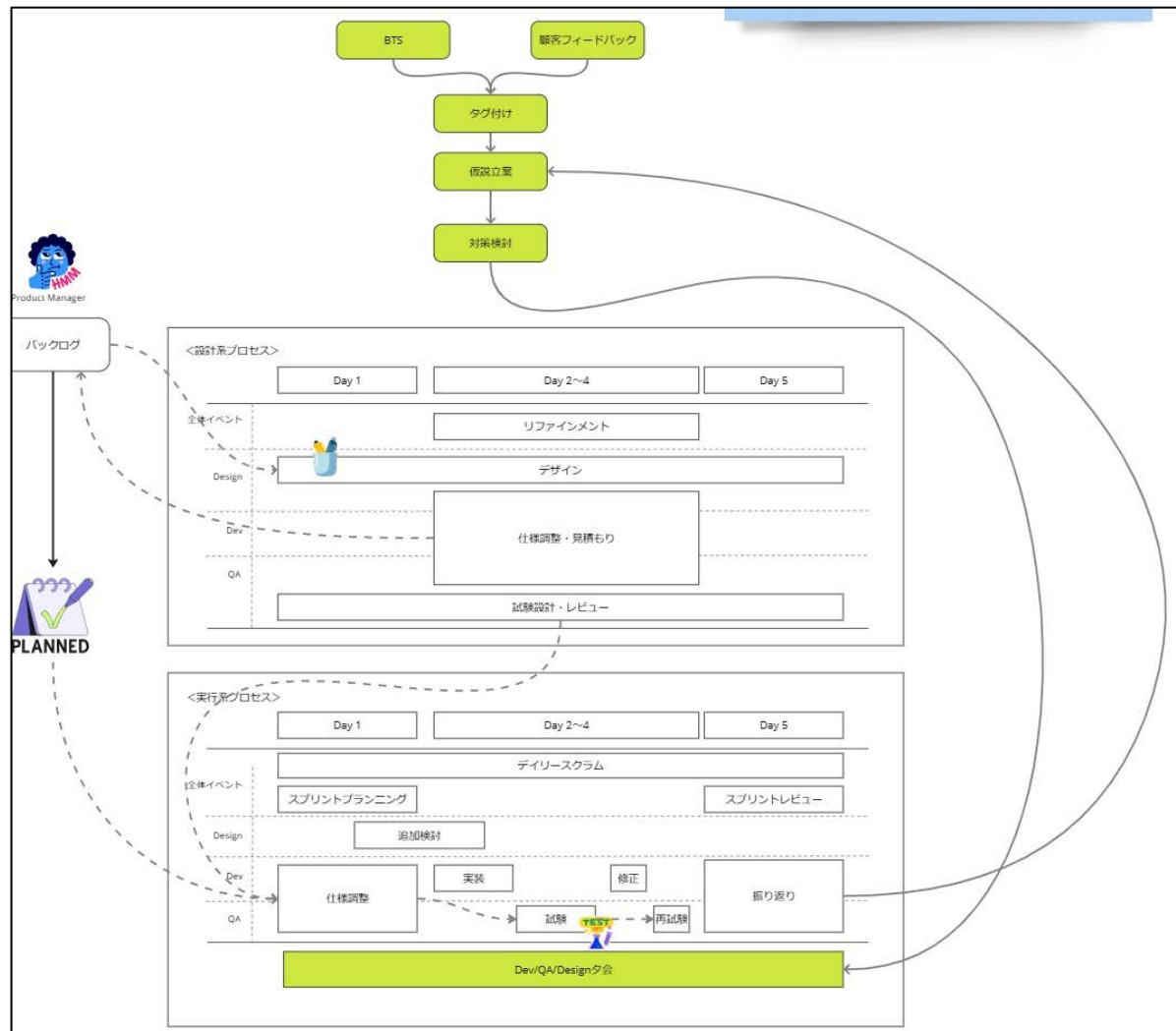
# 研究目的の要件定義



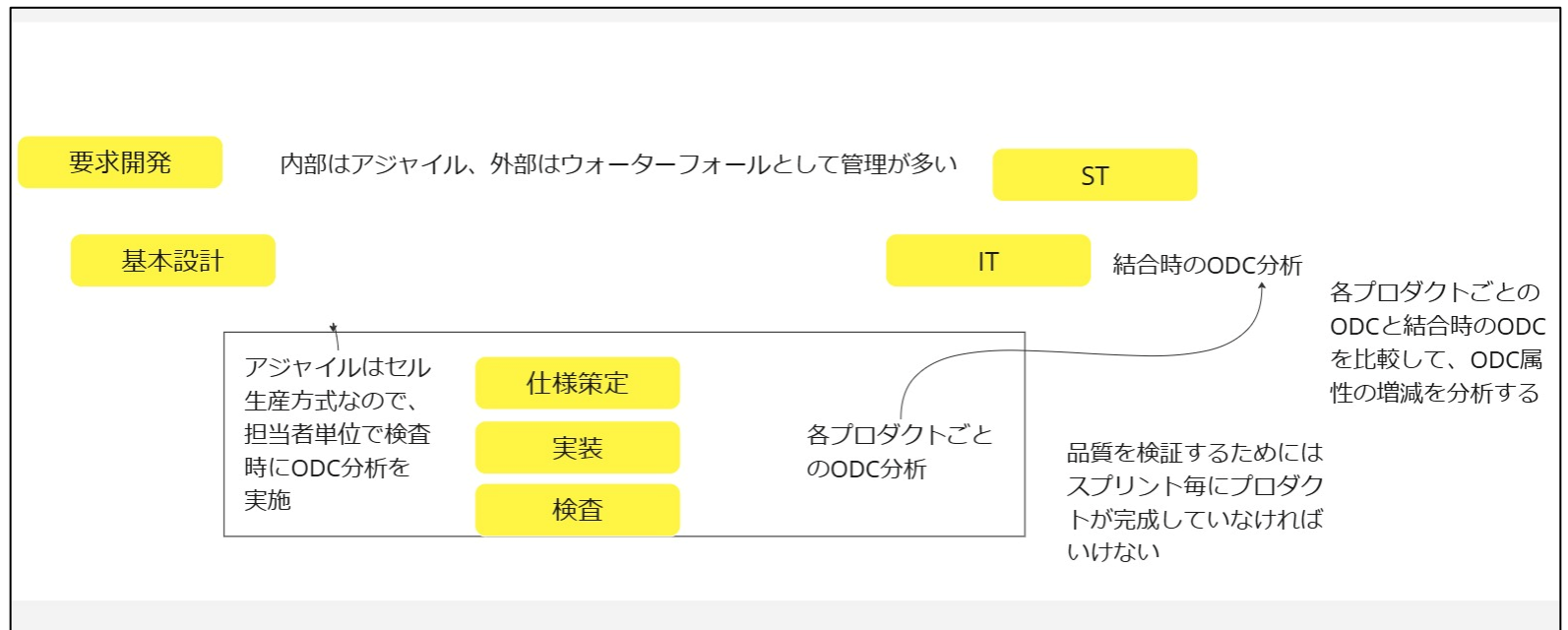
# 研究内容（ODC実施タスクの検討）



# 研究内容（アジャイルに適合させる①）



# 研究内容（アジャイルに適合させる②）





# 研究内容ふりかえり

- 第6期活動のポイント
  - ①ODC実施タスクの検討→途中
  - ②アジャイル開発におけるODC分析活用法
- ②アジャイル開発におけるODC分析活用法
  - 米国ではすでに実施されているが日本の事例は少ない
  - 研究員のアジャイル開発プロセスの紹介
    - シフトレフトを意識
  - 「分析」ではなく「ダッシュボード」的な使い方が向いていそう

# まとめ

- 第6期は初めて研究員がついて活動を開始できた
- 私の至らなさで研究を停滞させてしまったことは素直に申し訳ありませんでした
- ただニーズと社会的意義はあるという意見も伺っています
- もし興味を持っていただけのようにであればアンケートに書いていただけると幸いです